

成人看護学実習

実習要項

成人看護学実習

I 実習目標

- 1 周手術期にある対象を理解する。
- 2 急性の経過に合わせた看護を考え、実践する。

II 評価規準（めざす姿）

- 1 周手術期の対象を、自己学習を活用しながら包括的な視点で捉えることができる。
- 2 根拠を明確にして、対象のねがう姿に向けた看護計画を立案し、実施している。
- 3 実施した援助を、ねがう姿に近づいているか評価し、より対象の経過に合わせた援助に発展させている。
- 4 周手術期における自己の看護観を述べることができる。
- 5 医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。

III 単位と時間数及び実習場所

3 単位 90 時間（ 8：30～16：15 9時間換算×10 日 ）

	実習場所	実習時間	実習時期
病院実習	清水病院 5 階・7A 病棟 手術室、集中治療室（HCU）、救急外来	90 時間	3 年前期・後期

IV 学習内容・学習方法

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料
周手術期にある対象の経過や特徴を理解する。	事前・自己学習を通して成人・老年期の発達特性、発達課題、手術における合併症（既往や麻酔の影響などを）、生体反応の理解を深め実習に臨む。受け持ちの対象の情報が事前にわかっている場合は、自己学習の知識と関連させ予め記録を進めておく。 <1 日目> 午前中：病棟挨拶、管理報告に参加。病棟オリエンテーションを通して病棟の特徴、構造、看護方針を捉え、今後の実習につなげる。 11 時から手術室に向かう。手術室オリエンテーションを受け、入室方法、手術室の構造、手術見学時の注意点等を確認する。 手術室のオリエンテーション後、集中治療室（以下、HCU）オリエンテーションを受ける。 午後：受けもち予定の対象が入院してくる場合は、同意が得られたことを確認後、当日の担当看護師とともに挨拶をする（初日以降でも同じ）。	急性期の対象を、事前学習を活用しながら包括的な視点で捉えることができる。	事前学習 実習記録 I II III IV 1 日の実習計画表 面接 ミーティングの発言

	<術前の視点> ・受けもち対象者の入院時の様子見学 ・入院時オリエンテーション、手術前オリエンテーション、術前処置（消化管洗浄、臍処置、保清）の見学 ・術前訓練と術前指導（深呼吸方法、早期離床の必要性説明、痛みの少ない起き上がり方法など）を看護師とともに実施 ・パンフレットなど対象の状況に合わせて見やすいものがよい ・事前学習や患者情報（既往・現病歴・予定術式など）から系統的な観察ができるように、情報収集や看護師への確認を行い、実施する ・術前検査（血液・CT など）から、患者の予備力と手術・麻酔の影響を予測することができる ・対象や家族の心理状態、社会的背景の情報の収集（役割・経済・生活への影響など） 入院予定が後日の場合は電子カルテやクリニカルパスからアセスメントに必要な情報収集を行う。 →検査データ、予定術式、麻酔方法、基礎疾患、心電図、呼吸機能など	急性期の対象を、事前学習を活用しながら包括的な視点で捉えることができる。	事前学習 実習記録 Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ 1 日の実習計画表 面接 ミーティングの発言
急性の経過に合わせた看護援助を立案し、実施する。	<2 日目以降> 朝の管理報告、チームカンファレンスに参加する。それらが終了後当日の担当看護師に挨拶し、本日の目標・計画を発表する。 *受けもち対象者が入院している場合* (術直前の看護援助) ・術前全身状態の観察、心理面の援助 ・手術室へ向かう対象・家族の援助（心理的サポート含む） 手術見学（手術中の看護援助） 間接介助の看護師より手術の説明を受けながら見学する。 ・解剖生理学、術式・麻酔の方法、手術体位、術中の経過（手術時間・バイタルサインの変動・術中の体位・出血量・ドレーン管理・in-out 管理など） ※気分が悪くなりそうな学生は、手術開始前に看護師に伝えること、または悪くなったら無理せず速やかに報告する。 <術直後の視点・援助> ・手術侵襲の程度に応じて病室（HCU・個室・観察室など）の選択と帰室時ベッドの作成 ・バイタルサインの観察（意識レベルの観察、呼吸状態の観察、血圧・循環動態の観察、体温の観察、創・ドレーンの観察、水分出納の観察、腸蠕動の観察、疼痛・苦痛の緩和など） ・モニター観察（HR,P,BP,Spo2 など） ・生命徴候の把握と判断、対象の生命徴候に合わせた援助、周手術期における治療処置の援助、集中治療を受ける患者の援助を実施 ・手術侵襲による生体反応	根拠を明確にして、対象の望ましい姿に向けた看護計画を立案し、実施している。	術前後の患者支援 実習記録 Ⅲ Ⅳ 1 日の実習計画表 実習状況 (調整・出欠席)

急性の経過に合わせた看護援助を立案し、実施する。	*病棟帰室と集中治療室帰室の場合があるが、それぞれに所属する看護師とともに実施 ・腰椎麻酔の場合は術後 1 病日目に初期計画発表となるため、手術日までに問題点を立案し、当日の看護師に方向性の相談を済ませておく（手術が午後の場合は午前中に相談する） 術後 1 病日目（手術翌日）～ ・バイタルサイン・術後の観察は、帰室時測定は必ず看護師を行う。その後は、看護師と調整を行い、対象の状態に合わせて行っていく。 ・手術侵襲による生体反応を踏まえた観察と援助 ・早期離床の援助、転倒予防 ・治療処置に伴う苦痛への援助（術後創傷治癒過程、ドレーン管理） ・輸液管理、in-out 管理、スケール管理 ・生活を整える援助（洗面、清潔援助、排泄援助） ・退院、社会復帰に向けた援助、指導 ・援助の前・中・後の観察、援助の振り返り、報告 手術後に集中治療室へ帰室した場合は、翌朝病棟には行かずに直接集中治療室へ出向き、担当看護師の確認、管理報告を受ける。 <初期計画発表について> ・全身麻酔の場合、立案した問題点の内容・優先順位を担当看護師に相談する ・腰椎麻酔は術後 1 病日目、全身麻酔は術後 2 病日で初期計画発表を行う 受けもち対象者の術直後までの情報をアセスメントし、立案した看護計画を病棟スタッフとグループメンバーに対して発表する。 その後スタッフから助言をもらう。 →病棟指導者との時間調整を行う。 <u>朝の申し送り前にコピー2 部を当日の指導者へ渡しておくこと。</u> （日中空いている時間にスタッフ間でみてくれ、集まった助言を初期計画発表後伝えてくれる） *受けもち予定の対象者がまだ入院していない、もしくは退院して 受けもち対象者がいない場合* →看護師と共に行動する 【病棟で行動する場合】 当日の担当看護師とともに術後のケアや処置、離床など、特徴的な外科的看護の実際を学ぶ。 回診：医師、師長、リーダー看護師とともに外科回診が行われているため、学生 1 人につき最低 1 回は一緒に回らせてもらい、診察介助や創部の観察を行う。 【HCU で行動する場合】 8:30～管理報告に参加する。	根拠を明確にして、対象の望ましい姿に向けた看護計画を立案し、実施している。	術前後の患者支援 実習記録ⅢⅣ 1 日の実習計画表 実習状況（調整・出欠席）
---------------------------------	--	--	---

	当日の学生担当看護師を確認する。人工呼吸器管理や精密な in/out バランス管理など、超急性期における看護の実際を学ぶ。 【救急外来で行動する場合】 8:15～管理報告に参加する。 当日の学生担当看護師を確認し、管理報告に参加する。 救急要請、搬入、処置、必要時入院や手術、家族への対応など、迅速な連携、判断などといった救急看護の役割を学ぶ。 ※欠課や欠席は術後の経過に合わせた看護展開が困難となるため、体調管理には十分注意すること。	根拠を明確にして、対象の望ましい姿に向けた看護計画を立案し、実施している。	術前後の患者支援 実習記録ⅢⅣ 1日の実習計画表 実習状況（調整・出欠席）
実施した援助について評価・修正する。	初期計画発表後、助言をもとに対象の術後経過に合わせた看護計画の修正、SOAP から導きだされた看護展開を行う。生体反応を踏まえ看護援助の評価を実施・修正する。 生体反応については事前学習も含め基本的な知識は実習記録Ⅱに記載するが、受けもち患者に起きている生体反応を表現するため、術後記録に書き足していく。 （ミーティングでそれぞれの受けもち患者に生じた生体反応を発表し合う場面があるので、そのまとめにもなる） <視点> ・術後の経過や機能回復にあわせた看護問題点の優先順位変更 ・術後の経過や機能回復にあわせた術後観察とフィジカルアセスメント ・術後の経過や機能回復にあわせた段階的援助（合併症予防、疼痛コントロール、ドレーン類などの管理、対象の身体的・心理的・社会的苦痛・退院指導など）	実施した援助を、望ましい姿に近づいているか評価し、より対象の経過に合わせた援助に発展させている。	実習記録ⅠⅢⅣ 1日の実習計画表 ミーティングの発言 面接 出欠席
周手術期にある対象との関わりを通して、急性期の看護について表現する。	1日の実習計画表やミーティングの発言から理解を確認する。 テーマに合わせて学びを表現することで、周手術期看護に必要な視点を受けもち対象者から見出す。 <テーマ> 初期計画発表終了毎「初期計画発表を終えての気づき」 6日目～8日目 「急性の経過をたどる成人期の特徴の理解」 「受けもち対象者の生体反応」 「受けもち対象者の手術後の日常生活の変化」 10日目「周手術期看護で学べたこと、考えたこと」（1時間） 最終ミーティングでは、実習記録Ⅴを用いて発表する。 周手術期にある対象との関わりを通して、周手術期の看護について表現する。 →抽象的にならず、受けもち患者との関わりから具体的場面を用いて学びを表現する。 <視点> ・対象者・家族の健康障害の退院後の生活への影響やサポート ・対象者・家族の価値観や信念と危機	周手術期における自己の看護観を述べることができる。	実習記録Ⅴ 1日の実習計画表 ミーティングの発言

	・多職種連携と看護師の役割 ・学生同士の情報共有や看護計画・援助への助言や参加 ・様々な実習場所への移動や記録提出があるため、記録管理や時間厳守について ・自ら調べ、自己の言葉で表現すること		
--	--	--	--

V 記録の提出方法

- 1) 実習評価表
- 2) 1日の実習計画 毎日提出
- 3) 実習記録Ⅰ
- 4) 実習記録Ⅱ
- 5) 実習記録Ⅲ
- 6) 実習記録Ⅳ
- 7) 実習記録Ⅴ
- 8) 検温表 (実習共通)
- 9) 受けもち対象者の手術見学の視点 手術見学実習前日までに教員の確認後、手術室へ提出する。
- 10) 成人看護学実習 手術見学後のレポート

「受けもち対象者の手術見学の視点」{看護記録Ⅰ―Ⅱ}をあわせてとじ担当教員に確認後、見学後1週間以内に手術室へ提出する。(提出後1週間ごろに手術室へレポートを受け取りに行く)

- 11) 作成したパンフレット(コピー)、資料類

※1)～11)の順に綴じて、指定された日時までに提出する。

※複数例受け持った学生は、1) 2) A氏の3) 4) 5) 6) 8)、B氏の3) 4) 5) 6) 8)、7) 9) 10) 11)の順に綴じて、インデックスで分けけて提出。

成人看護学実習 計画表

※3 日目に全麻の手術を受ける対象者を受けもつ場合の展開例 (45 分/1 時間×10 日)

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目
実 習 内 容	・病棟・手術室・HCU オリエンテーション ・対象紹介 ・情報収集	・回診、処置を通して 外科看護を学ぶ ・入院時の対象者の 様子を理解するととも に術前の看護を学ぶ	・受けもち対象者の 手術術中の見学を通 して術中の術式、生体 反応や術中の看護に ついて学ぶ ・術直後の看護を学 ぶ	・術後 1 病日目の患者 への看護実践
記 録	実習記録 I	実習記録 I ・ II 手術見学の視点	実習記録 I ・ II ・ III	実習記録 I ・ II ・ III
c f				
	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目
実 習 内 容	・術後 2 病日目の対象 者への看護実践 ・病棟ミーティング 「初期計画発表」※	・術後 3 病日目の対象 者への看護実践	・術後 6 病日目の対象 者への看護実践	・術後 7 病日目の対象 者への看護実践
記 録	実習記録 I ～IV 手術見学後レポート	実習記録 III ・ IV	実習記録 IV	実習記録 IV 「生体反応」資料
c f	初期計画発表を終え ての気づき (※同じ く)	急性の経過をたどる 成人期の特徴の理解	受けもち対象者の生 体反応	受けもち対象者の手 術後の日常生活の変 化
	9 日目	10 日目		
実 習 内 容	・術後 8 病日目の対象 者への看護実践	・術後 9 病日目の対象 者への看護実践		
記 録	実習記録 IV	実習記録 IV ・ V		
c f		周手術期看護で学べ たこと、考えたこと		

※受けもち対象者の手術日・術後経過により初期計画発表日の変更あり

学習活動	具体的な評価基準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一歩努力を要する
周手術期にある対象の経過や特徴を理解する。	周手術期の対象を、事前・自己学習を活用しながら包括的な視点で捉えることができる。	対象理解 倫理観	事前学習 実習記録ⅠⅡⅢⅣ 1日の実習計画表 ミーティングの 発言 面接	ねがう姿を想定・確認しながら、周手術期にある対象の特徴を理解して、看護の方向性を考えられている。 2 0	周手術期にある対象の特徴を理解して、看護の方向性を考えられている。 1 0	周手術期にある対象の特徴は理解している。 5	周手術期にある対象の特徴を理解するための学習が不十分である。 3
急性の経過に合わせた看護援助を立案し、実施する。	根拠を明確にして、対象のねがう姿に向けた看護計画を立案し、実施している。	実践力 調整力 倫理観	術前後の患者支援 実習記録ⅢⅣ 1日の実習計画表 実習状況（調整・出欠席）	根拠を明確にして、対象のねがう姿に向けて、急性の経過に合わせた個別性のある看護計画を立案し実施している。 2 5	根拠を明確にして、対象のねがう姿に向けて、急性の経過に合わせた看護計画を立案し実施している。 2 0	変化する対象の経過に合わせた看護計画を立案し実施している。 1 0	看護計画を立案し実施している。 5
実施した援助について評価・修正する。	実施した援助を、ねがう姿に近づいているか評価し、より対象の経過に合わせた援助に発展させている。	実践力 探求心 倫理観	実習記録ⅠⅢⅣ 1日の実習計画表 ミーティングの 発言 面接 出欠席	実施した援助を、ねがう姿に近づいているか評価し、より対象の経過に合わせた援助に発展させている。 2 0	実施した援助を、ねがう姿に近づいているか評価し、対象にとっての効果振り返っている。 1 5	実施した援助を対象にとって安全・安楽であったか振り返っている。 5	自分の反省や取り組みについて表現している。 3
周手術期にある対象との関わりを通して、急性期の看護について表現する。	自己の看護観として、周手術期における対象の健康障害と家族への影響などを述べるができる。	実践力 探求心	実習記録Ⅴ 1日の実習計画表 ミーティングの 発言	急性期にある対象・家族・社会的側面などの関わりを通して、周手術期看護についての考えを文献等を利用してしながら表現している。 2 5	急性期にある対象との関わりを通して、周手術期における自己の学びを表現している。 2 0	学びや指導者の助言を活かして自己の学びとして表現している。 1 0	学びや指導者の助言のみ表現している。 5
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する。	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動を取り、仲間の模範となりチームをけん引している。 1 0	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。 5	看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るという視点で自己の行動を振り返っている。 3	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。 0

欠課時間

()時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン